

SATREPS 市民フォーラム開催報告



平成 23 年 11 月 23 日（祝）いちじょうの葉も鮮やかに色づく秋晴れの中、横浜市立大学 SATREPS 市民フォーラムが一般市民 149 名、関係機関 28 名、市大関係者 47 名の合計 224 名が集まり、盛大に開催されました。

午前には、ドキュメンタリー映画「カラコルム（カラコルム・ヒンズークシ学術探検記録映画）」が上映されました。1955 年、故・木原均博士を隊長として、戦後日本初のアフガニスタン・パキスタン・イランへ学術研究調査に行った際のものです。



150 名ほどの来場者が半世紀前の偉業と緑豊かだった大草原、雄大な山脈と氷河、人々の営みをご覧になり、目を輝かせていらっしゃいました。来場者からのアンケートには、「昭和の行動経済成長時代を彷彿とさせる BGM とナレーター、この映画は秀逸である！感動した！！」「50 年前の貴重なアフガニスタン記録映画と木原先生の研究力というものがみられ、感じられた。大変感動した次第です」「50 年前のアフガニスタンの国内状況を見ることができ、大変困難な時代に日本から探検隊が入っていったことに驚きを覚えます」との声が寄せられました。



お昼時には、アフガニスタン料理を始め、コムギを使った料理として、インド料理のナンとカレー、日本のお好み焼きといった屋台が立ち並び来場者の列ができていました。さらに、アフガニスタンの文化に触れるために用意された、民族衣装や民芸品の店も並びました。地雷探し体験な

どでは子供たちの姿も見受けられました。

野外ステージでは、アフガン音楽が流れ、来場者参加のダンスも盛り上がっていました。五感でアフガニスタンを満喫できたのではないのでしょうか。



SATREPS 市民フォーラム開催報告

午後の部は、公開シンポジウム「アフガニスタンの復興に向けて今我々ができること」と題して、アフガニスタン大使館一等書記官ラザック・ルックマン氏の基調講演から始まり、SATREPS の実施母体である科学技術振興機構の岡谷重雄氏や国際協力機構の熊代輝義氏による講演に続き、CSO/NGO の支援を行う世界銀行の谷口和繁氏、市大の国際化について副学長兼 GCI センター長の重田諭吉教授による講演と続けました。休憩をはさんだ後は、前日にアフガニスタンより来日されたマフムード・オスマンザイ氏、アフガニスタン国立農業試験場再建計画（NARP）の米山正博氏、SATREPS アフガン小麦プロジェクトリーダー坂智広教授、お茶の水女子大学客員教授、大阪大学名誉教授の内海成治教授へと講演がすすみました。



アンケートには次のような意見が寄せられました。「幾多のダメージを受けながら、その中での国民生活は想像以上のものだろう」「Friends of SATREPS に対して大変興味を持った」「アフガン復興プロジェクトの内容が具体的に説明されていて分かりやすかった」「世界全体からみた経済成長や高齢化とその課題について今現在の日本にかなり危機感を持った」「市大 OB としてまた、米国に 30 年滞在していたため自分が何かお手伝いできることがあるのではないかと関心をもった」「アフガニスタンの現状が、決して平たんな道ではなかったという、現地の状況が良く分かった」「NARP の活動といった JICA の国際活動が理解できた」「コムギの増産よりもアフガンの飢餓を救いたいという気持ちに共感した」「国造りには、人造りが重要だということが分かった」アンケートには、各講演に対して、興味関心を示す回答が多く寄せられていたことに、講演の中でお話がありました言葉を借りますと「愛の反対は無関心」、非常に多くの愛がこのシンポジウムで集まったように感じます。



SATREPS 市民フォーラム開催報告



休憩の後、「アフガニスタンの復興に向けて今我々ができること～日本の科学事術とアカデミアの役割～」と題して会場からの質問を取り入れながらパネルディスカッションを行いました。

次世代を担う人材をいかに育成していくか、アフガニスタンに対する個々の支援を束ねて成果に結びつけていくための CSO/NGO を含めた協力体制、大学など専門性をもったグループの果たす役割、また、具体的に科学技術によるコムギの生産性の向上への取り組みに重要なことなどについて意見が交わされ、地球規模の課題にチャレンジしていくために何ができるのか、整理して進めていくきっかけとなりました。

パネルディスカッションが終了した頃には、晴れ渡っていた空がいつの間にか雨になっていました。市民フォーラムの終了を空が寂しがっているようにも感じられました。



SATREPS 市民フォーラム開催報告



その後、会場をいちょうの館に移し、「SATREPS アフガニスタンプロジェクト」のキックオフセレモニーが執り行われました。学長挨拶に続き、アフガニスタン大使館一等書記官、科学技術振興機構の岡谷氏、国際協力機構の熊代氏、横浜市の青木理事より祝辞を賜り、横浜市立大学の本プロジェクトの取り組みへのエールをいただきました。最後に、学長、一等書記官、坂教授による硬い握手が交わされ、プロジェクトの本格的な開始が確認されました。



SATREPS 市民フォーラム開催報告

“女ごころと秋の空”昔の人はうまくいったものですね。キックオフセレモニー終了時には、すっかり雨も上がっておりました。水問題を取り上げると雨が降るなど、なんだか空も今回の講演を聞いていたのだろうか、アフガニスタンと繋がっている空に問いかけたい気持ちになりました。

このほか、会場周辺には、各協賛企業を含め、アフガニスタンの復興支援に取り組まれている、カレーズの会、難民を救う会、国連 WFP 協会、ペシャワール会、PEACE の方々より、ご協力いただいたパネル展を開催しておりました。パネル展示についても「水路の造成について、煙るほどの砂漠に、水路が作られ周囲が緑になったことに感動しました」「自分が関係する会のアフガニスタンでの活動状況を垣間見ることができた」「市場や人物の様子の写真から、町の情報が伝わってきて良かった」といった声も寄せられました。



さらに、本学の学生団体である「PEACE NEWS」および「トレボル@横浜市」からは手作りの活動紹介を作成いただきました。本学からも学部長を始め、理系の先生を中心に公開シンポジウムにご参加いただきました。また、学生への参加を呼び掛けていただき何人かの学生も参加し、科学技術振興機構に来ている SATREPS のインターン生とも交流を図られたようでした。一方、木原生物学研究所の学生さんはアルバイトとしてもご協力いただき、受付や地雷体験コーナー、会場内誘導等で大活躍いただきました。

最後までお付き合いいただきました関係者の皆様、誠にありがとうございました。また、会場で来場者を楽しませていただきました JST のインターン生、研究室の学生の皆さん、ご協力ありがとうございます！引き続き、SATREPS アフガニスタンプロジェクトに愛を並びに「Friends of SATREPS」に関心をお持ちくだされば幸いです。



SATREPS 市民フォーラム開催報告



(了)